

海外研修 様式第2号

2025年 11月 10日

武蔵野美術大学 学長 殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	多比良歩南	所属	視覚伝達デザイン学科
		職位	助教

研究課題	スポーツ教育現場におけるコミュニケーションのデザイン
研究先機関	オーストリア国立図書館/ピカソ美術館
主な滞在地 (国・都市名)	スペイン(バルセロナ)・オーストリア(ウィーン)
渡航日程	2025年 10月 22日 ~ 2025年 10月 30日 (9日間)
研究目的・理由	<p>ウィーンでの研修計画</p> <p>国立図書館での調査: オーストリア国立図書館のアーカイブを訪れ、過去の体操指導書や児童向け教育図書を閲覧し、図解や言葉（オノマトペなど）がどのように使われていたかを調査。指導法や視覚表現が時代とともにどう変化したか、その歴史的背景を理解することを目的とする。</p> <p>美術館での分析: アルベルティーナ美術館を訪れ、ウィーン分離派などの歴史的なデザイン作品を鑑賞。これらの作品が、当時の人々の身体感覚や動きの捉え方にどう影響を与えたかを考察する。シンプルかつ幾何学的なデザインが、スポーツの動きを表現する上でどう活用できるか、ヒントを探る。</p> <p>バルセロナでの研修計画</p> <p>美術館と建築物での考察: ピカソ美術館: ピカソの作品を鑑賞し、彼が身体の動きや感情をどう視覚化しようとしたかを分析。彼の表現手法から、体操の動きや子どもの感情を絵本で表現するためのインスピレーションを得る。</p> <p>サグラダファミリア: ガウディの建築が持つ自然の構造と身体感覚への訴えかけをじっくりと体験。この経験を通じて、体操指導における「身体と空間の関係性」や、絵本における背景デザインのヒントを得る。</p> <p>書店での調査: 現地の大型書店や児童書専門店を訪る。スポーツをテーマにした絵本や児童向け教育図書を探し、デザインの工夫やコミュニケーション手法について調査。</p>

研究成果発表予定
(展覧会、著書、
論文発表等)

今後の展示や絵本編集で発表予定。

研究内容	<h2>1. 研修の目的と概要</h2> <h3>1-1. テーマと視点</h3> <p>テーマ: スポーツ教育現場におけるコミュニケーションのデザイン 視点: 児童向けの体操指導における「動きの言語化」「視覚表現」「身体と空間の関係性」を、ウィーンとバルセロナの歴史・芸術・デザインの視点から考察する。</p>								
	<h3>1-2. 研修地と目的</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修地</th><th>視察対象</th><th>考察目的</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウィーン</td><td>国立図書館、美術史美術館</td><td>歴史的な指導法の「体系化」と、モダンデザインにおける「動きの単純化・視覚化」の原理を学ぶ。</td></tr> <tr> <td>バルセロナ</td><td>ピカソ美術館、サグラダファミリア、書店</td><td>「創造性の解放」、「身体と空間の統合」を調査する。</td></tr> </tbody> </table>	研修地	視察対象	考察目的	ウィーン	国立図書館、美術史美術館	歴史的な指導法の「体系化」と、モダンデザインにおける「動きの単純化・視覚化」の原理を学ぶ。	バルセロナ	ピカソ美術館、サグラダファミリア、書店
研修地	視察対象	考察目的							
ウィーン	国立図書館、美術史美術館	歴史的な指導法の「体系化」と、モダンデザインにおける「動きの単純化・視覚化」の原理を学ぶ。							
バルセロナ	ピカソ美術館、サグラダファミリア、書店	「創造性の解放」、「身体と空間の統合」を調査する。							
	<h2>2. ウィーン:歴史から学ぶ「動きの体系化と視覚化」のデザイン</h2> <p>ウィーンでは、モダンデザインに触れることで、複雑な「動き」をいかに普遍的で伝達力の高い情報としてデザインするかを考察した。</p>								
	<h3>2-1. 幾何学デザインに見る「動作の本質」の抽出（美術史美術館、ヴェルヴェデーレ宮殿）</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>視察した事実の描写</th><th>児童向け体操教育への考察</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウィーン分離派: クリムトやセセッションのデザインに見られる、シンプルかつ幾何学的な構成と、本質的な要素を強調する表現を鑑賞。無駄をそぎ落とし、伝えたいメッセージを純粋な形で表現する手法を学んだ。</td><td>【視覚表現の単純化】 体操の動きを教えるための絵本や指導資料のデザインにおいて、複雑な人体図ではなく、動きの方向、力のベクトル、主要な関節の角度といった「動作の本質」のみを、幾何学的な線や色で単純化して表現する手法が有効である。</td></tr> <tr> <td>考察の深化: 複雑な現実の運動を、子どもが認知しやすいシンプルな図形に置き換えることで、指導における「伝達ノイズ」を最小限に抑えることができる。</td><td>【カリキュラムの一貫性】 育成段階ごとの目標やメッセージを、ウィーン分離派のような一貫したデザイン言語（フォント、配色、図形）で体系的に整理することで、指導者間のメッセージのブレを防ぎ、選手が迷いなく学習を進められる。</td></tr> </tbody> </table>	視察した事実の描写	児童向け体操教育への考察	ウィーン分離派: クリムトやセセッションのデザインに見られる、シンプルかつ幾何学的な構成と、本質的な要素を強調する表現を鑑賞。無駄をそぎ落とし、伝えたいメッセージを純粋な形で表現する手法を学んだ。	【視覚表現の単純化】 体操の動きを教えるための絵本や指導資料のデザインにおいて、複雑な人体図ではなく、動きの方向、力のベクトル、主要な関節の角度といった「動作の本質」のみを、幾何学的な線や色で単純化して表現する手法が有効である。	考察の深化: 複雑な現実の運動を、子どもが認知しやすいシンプルな図形に置き換えることで、指導における「伝達ノイズ」を最小限に抑えることができる。	【カリキュラムの一貫性】 育成段階ごとの目標やメッセージを、ウィーン分離派のような一貫したデザイン言語（フォント、配色、図形）で体系的に整理することで、指導者間のメッセージのブレを防ぎ、選手が迷いなく学習を進められる。		
視察した事実の描写	児童向け体操教育への考察								
ウィーン分離派: クリムトやセセッションのデザインに見られる、シンプルかつ幾何学的な構成と、本質的な要素を強調する表現を鑑賞。無駄をそぎ落とし、伝えたいメッセージを純粋な形で表現する手法を学んだ。	【視覚表現の単純化】 体操の動きを教えるための絵本や指導資料のデザインにおいて、複雑な人体図ではなく、動きの方向、力のベクトル、主要な関節の角度といった「動作の本質」のみを、幾何学的な線や色で単純化して表現する手法が有効である。								
考察の深化: 複雑な現実の運動を、子どもが認知しやすいシンプルな図形に置き換えることで、指導における「伝達ノイズ」を最小限に抑えることができる。	【カリキュラムの一貫性】 育成段階ごとの目標やメッセージを、ウィーン分離派のような一貫したデザイン言語（フォント、配色、図形）で体系的に整理することで、指導者間のメッセージのブレを防ぎ、選手が迷いなく学習を進められる。								



クリムト「接吻」



アトラント (Atlantes)



オーストリア国立図書館

3. バルセロナ：創造性を解放する「身体と空間の統合」のデザイン

バルセロナでは、ガウディ建築やピカソの創造プロセスを通じて、身体感覚の解放と創造的なコミュニケーションの原理を考察した。

3-1. 創造性と「身体の視覚化」（ピカソ美術館）

創造の土台: 確固たるデッサン力という基礎技術の習得があった上で、「破壊と変革」を行っている事実が示されていた。	【変革の文脈設計】 創造的なプレーや自立を促す前に、「何が基礎として不可欠なのか」を明確に言語化し、基礎の習熟が次の創造のライセンスであることをコミュニケーションで定義する。指導法や戦術の「変革」を行う際は、それを「破壊」ではなく「次の創造」として位置づけ、その意図を明確に伝達する必要がある。
ピカソの作風の変化: 幼少期から晩年までの作品群を辿る中で、彼が身体の動きや感情を、写実から抽象、そして再構築へと「視覚化」しようとした創造的なプロセスを目撃した。	【感情と動作の結びつけ】 体操の絵本表現において、動作だけでなく、その動作に伴う子どもの「感情」（楽しい、悔しい、集中している）をピカソのようにデフォルメして視覚化する。これにより、子どもは動作を「感覚」と結びつけて記憶し、表現力を高めることができる。



バルセロナ市博物館の展示





『ラス・メニーナス』 (1957年)



マルガリータ王女の肖像 (1957年)

3-2. 空間と身体感覚の「統合」 (サグラダファミリア)

視察した事実の描写	児童向け体操教育への考察
<p>サグラダファミリア:</p> <p>ガウディが自然の構造（木々や骨格）から着想を得た柱や曲線が、鑑賞者の身体感覚に直接訴えかけ、特定の感情や動きを誘発する。身体と空間が有機的に結びついた経験。</p>	<p>【空間のコミュニケーション力】</p> <p>体操指導における「空間の使い方」を、単なる移動の指示ではなく、「自然な動きの導線」としてデザインする。例えば、マット運動の背景デザインや指導の際に使用する「道具の配置」が、子どもの身体感覚にどのように影響するかを意識的に設計する。</p>
<p>現地書店調査:</p> <p>現地の児童書専門店や大型書店を訪れ、スポーツをテーマにした絵本を調査。大胆な色使いが多く使われていた。</p>	<p>【現地の知恵の活用】</p> <p>児童書のデザインにおいて、視覚的な訴求力と同時に、言語的な身体感覚への訴えかけが重要である。日本の絵本や指導資料も、オノマトペと幾何学的なデザインを統合することで、より効果的なコミュニケーションツールになり得る。</p>

4. 日本のスポーツ教育現場への提言：デザインの統合アクションプラン

ウィーンとバルセロナでの考察に基づき、日本の体操教育現場、特に指導資料や絵本制作におけるコミュニケーションデザインの強化に向けて、以下の行動計画を提言する。

アクションプラン	目的と期待される効果	参照原理
【Action 1】「オノマトペ・図形」を軸とした共通言語の体系化	指導の属人化を防ぎ、動きの再現性を高める。国立図書館の知見を活かし、過去の指導書に学ぶオノマトペと、ウィーン分離派の幾何学的な単純化を統合した「動きの表現ライブラリ」を作成する。	ウィーン（体系化）
【Action 2】「非言語モード」による集中と調和の環境設計	練習開始時や競技中の非言語的な調和を意図的に訓練する。指導者の服装や姿勢、練習場の整理整頓（空間デザイン）を、リスクと集中を促すメッセージとして徹底する。	ウィーン（非言語的な調和）
【Action 3】「創造的挑戦権」のルール化と感情の視覚化	ピカソの創造プロセスに倣い、基礎技術の習得を前提とした**「自由な挑戦とミスの許容」ルールを明確に設計する。また、指導絵本では、動作と同時に感情（楽しさ、集中）をデフォルメして表現し、身体感覚と心理状態の統合を促す。	バルセロナ（創造性の解放）
【Action 4】「身体と空間の統合」を意識した指導デザイン	サグラダファミリアの原理を応用し、体操の動きの指導において「空間の使い方」（例：天井への伸び、地面への沈み込み）を明確に言語化・視覚化する。絵本の背景デザインも、単なる背景ではなく、身体感覚を誘発する空間として設計する。	バルセロナ（身体と空間）

大学授業における研究成果の還元

研修で得た海外の教育現場におけるコミュニケーションデザインの事例や、児童向け絵本に関する知見を、教授との対話を通じて共有する。これにより、大学の教育研究に間接的に貢献する。

研究日程 (全滯在期間)

以上

※ 欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。

※ その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。